6次産業化アワード 奨励賞

女性活躍賞

有限会社貫井園

全国の農業女子を引っ張る
シイタケ生産の女性農業者

取締役 貫井氏

事業者の概要

●所在地　：埼玉県入間市
●代表者　：代表取締役 貫井 義一
●売上高　：3千3百万円（H24）→3千8百万円（H29）
●従業員数：4人
●URL　　：http://nukuien.com

事業の内容

元はお茶農家で、約30年前からシイタケの栽培を始める。国内のシイタケは菌床栽培が9割を占めるなか、原木栽培にこだわり、味や香り、歯ごたえに特長のあるシイタケを生産する。10年ほど前に長女の香織氏が就農し、レストランやオンラインショップに向けた販売をスタート。加工品も扱い始め商品開発を進めた。海外への販路拡大は全国の女性農業者とともに取り組んでいる。小規模でも連携すれば開拓できるとして、参加者を集めたうえで香港での販促活動などを行っている。

ミシュラン星付きレストランでも使用

強み・ポイント

農業女子プロジェクトに参加し、全国の女性農業者と連携している。貫井園の呼びかけで実現した2017年1月の「農業女子フェア in 香港」には11農家が参加。店頭でPR・販売し、ほぼ完売。同年秋にも香港で開催。料理教室を開いて日本食を試食してもらい、また和食レストランで特別メニューを提供した。

課題と対応方法

海外輸出に取り組み始めた際、商習慣や言葉の壁を越え、自ら販路を開拓する難しさや販促経費の大きさを実感。既存の組織にとらわれない海外プロモーションを行おうと、農業女子プロジェクトを通じて全国に連携を呼びかけた。

今後の展望

産地の農産物を活かしたお茶やお菓子など農業女子プロジェクトのシリーズ商品を開発中。パッケージデザインを統一させることで海外だけでなく国内での販売も強化する方針。自社事業ではブドウやブルーベリーの栽培を始め、生産物の通年化を目指している。

6次産業化アワード 奨励賞

地域連携賞

株式会社オオノ農園

落花生のうまさ極める農法、加工法

代表取締役 大野氏

事業者の概要

●所在地　：千葉県香取市
●代表者　：代表取締役 大野 俊江
●売上高　：4千3百万円（H25）→7千2百万円（H29）
●従業員数：11人
●URL　　：http://www.oono-nouen.com

事業の内容

落花生に経営資源を集中し、品質向上に努め、消費の幅を広げる多様な加工品を展開している。代表的な加工品は「食のちばの逸品2015女性起業家等部門金賞」を受賞した、添加物ゼロの落花生だけで作った「落花生100％ペースト」。最高級品種「千葉半立（ちばはんだち）」にやわらかい「郷の香（さとのか）」という品種を1～2割程度加え、ペーストにとろみを出す工夫をしている。生産個数は2016年1万4000個。

落花生 100％ペースト

強み・ポイント

近隣サツマイモ農家との良好な関係を活かし、サツマイモ農家が収穫後、一年間休ませる畑を借り受け、落花生の栽培農地を9年間で8倍に増やした（2017年17ヘクタール）。「落花生100％ペースト」では落花生の自然の甘みを引き出すため、乾燥機を一切使わず、天日干しと自然の風で乾かす方法を採用。収穫用機械や乾燥ボックスなどを独自に開発している。

課題と対応方法

GAP認証の取得や栽培面積、販路の拡大、事業拡大規模の見極めが課題。安心安全の高品質を求める消費者を主なターゲットに、道の駅や直売所のほか都内百貨店での販売に注力。商談会やコンテストにも参加し、販路開拓を常に意識している。

今後の展望

落花生を使った地域を代表する息の長いお土産の開発が目標。ほかに農福連携事業を模索。農業が人にもたらす「癒やす力」を生かし、福祉分野での農業の活用を検討している。

6次産業化アワード 奨励賞
地域資源活用賞

有限会社ティーエム しろうま農場

白馬そだちをブランド化

代表取締役社長 津滝氏（右）とスタッフ

事業者の概要

●所在地　：長野県北安曇郡白馬村
●代表者　：代表取締役社長 津滝 明子
●売上高　：5千8百万円（H24）→9千8百万円（H29）
●従業員数：53人（夏季パートも含む）
●URL　　：http://www.tm-hakuba.com

強み・ポイント

農地集積で経営を合理化。水稲面積は66.5ヘクタールで白馬村全体の15%を占める。醸造会社をはじめとした信頼できる優良加工会社が近隣に多く、生産と販路拡大に集中できる恵まれた環境にある。「白馬」の名が、首都圏ではスキー場などの好イメージで捉えられており、ブランド展開に役立っている。

事業の内容

地元「白馬」産作物の使用を前面に押し出した自社ブランド「白馬そだち」を商標登録。お酒やそば、ブルーベリー、しょうゆ、トマト製品などの加工品20種類余りを「白馬そだち」の統一ブランドで販売している。直売所とレストランを兼ねた農家かふぇも運営。加工作業には一切タッチせず、すべて外部へ委託、経営資源をすべて生産と商品販売に投入している。農地集積を進め、耕作面積は現在約120ヘクタール。白馬村全体の耕作面積の約20%を占める。

農かふぇ評判のロールキャベツ

課題と対応方法

白馬村を代表する自社ブランドの“顔”となる目玉商品の育成が課題。また、地元ホテルなど地域の観光業者との連携を強化し、「白馬そだち」商品のブランドを首都圏などに、より一層浸透させる戦略を練っている。

今後の展望

園芸品目の商品開発を進めていく。快適な環境で農業、自然が体験できる流行の「グランピング」施設の建設も計画している。計40人が宿泊できるキャンプ施設で、地元関係業者と協議し計画実現に向けた準備を進めている。開業目標年は2019年。

6次産業化アワード 奨励賞
地域発展貢献賞

株式会社まるやま農場

飴色の柔らかい干し芋を農薬不使用で

代表取締役 丸山氏（左から2人目）とスタッフ

事業者の概要

●所在地　：静岡県掛川市
●代表者　：代表取締役 丸山 勝久
●売上高　：574万円（H24）→1億4千4百万円（H29）
●従業員数：17人
●URL　　：https://maruyamafarm.com

強み・ポイント

他産業と同等の労働条件を目指し、従業員の休日確保がしっかりしている。このため従業員のモチベーションは高く、各部門は会社の事業部のように独立した経営管理がなされている。販売は独自に直販を行うとともに、グループ会社の卸・小売・通販等ネットワークを活用し多様な方法を取っている。

事業の内容

地域の農家の高齢化や後継者不足による耕作放棄地を地域資源として有効活用し、消費者に安心で安全な食べ物を届けたいとの使命感から事業が始まった。地域発祥の特産品である干し芋を復活生産すべくサツマイモの「紅はるか」を農薬や化学肥料を使わず栽培し、貯蔵や加工の工夫で飴色で柔らかい干し芋を製造している。サツマイモの他にもお茶、葉ネギ、イチゴの生産などに力を入れている。会社として組織的にできる農業というコンセプトの下、若者や女性の採用や、高齢者や障がい者の活用も積極的に行っており運営にも工夫がなされている。

やわらかほしいも、寒蜜いちご

課題と対応方法

サツマイモの栽培は農薬不使用であり雑草の管理を人の手で行う必要があり、加工も全て手作業の為、労働力の確保が重要になる。ただ、まるやま農場は、これまで農家ができなかったことを、企業として取り組むことで実現している。

今後の展望

グローバルGAPを取得し生産品の海外展開を目指しており、海外との商談会等にも積極的に出展している。干し芋については主にアジア等からの引き合いが増えている。また、2020年の東京五輪で食材として採用されることを目標にしている。